

2日目

9月30日  
(木)

## 第1分科会

会場：ホテルアバローム紀の国 2F 鳳凰

テーマ

### 地域生活を支えるネットワークづくり

障害のある人たちが、地域であたりまえの暮らしを築いていくために必要なネットワークについて、入所施設からの移行周辺の課題や、地域生活を支える取り組み、地域全体の課題共有をすすめる自立支援協議会の役割等を論点に深めていきます。

■ 9：30～10：50

#### 講演1

荒井 隆一 氏

千葉県 社会福祉法人 ロザリオの聖母会  
グループホーム支援センター所長

演題 「「個人」の暮らしを支えるネットワークづくり

～グループホーム制度の活用の仕方」

■ 11：10～12：30

#### 講演2

松上 利男 氏

大阪府 社会福祉法人 北摂杉の子会 常務理事

演題 「行動障害を伴う自閉症者の地域移行を支えるグループ  
ホーム・入所施設の機能のあり方」

■ 12：30～13：30

昼食・休憩

■ 13:30～15:30

実践報告

- ①和歌山県 社会福祉法人 ふたば福祉会 ふたば第二作業所  
主任支援員 松下 直樹 氏  
「小さなあゆみから自分らしさの追及へ」
- ②山口県 山口芸術短期大学  
講師 佐藤 真澄 氏  
「地域自立支援協議会のもつ可能性  
—愛知県豊田市の取り組みから」
- ③神奈川県 社会福祉法人 同愛会 てらん広場  
施設長 林 茂雄 氏  
「地域生活を支える入所施設の役割～通過施設を考える～」

■ 15:50～17:00

シンポジウム

- コーディネーター 松原 卓 氏  
社会福祉法人 ふたば福祉会  
—和歌山県  
相談支援体制整備アドバイザー—
- アドバイザー 荒井 隆一 氏  
社会福祉法人 ロザリオの聖母会  
グループホーム支援センター所長
- 松上 利男 氏  
社会福祉法人 北摂杉の子会 常務理事

実践報告者 3名

2日目

9月30日  
(木)

第2分科会

会場：和歌山県民文化会館小ホール

テーマ

## 行動障害のある人の支援を考える

行動障害について、課題とされる行為を誘発する要因を回避したり、行為が起きた場合のリスクマネジメントなど、その支援の困難さから経験や専門的知識、技術を有することが求められています。本分科会では、先駆的な取り組みや様々な角度からの実践例を踏まえ、行動障害を立体的に考察することで、職員の意識改革を行うと共に、福祉専門職としての資質向上に努める事を目的としています。

■ 9：30～10：50

講演1

河島 淳子 氏

愛媛県 発達障害児療育センター

トモニ療育センター 所長

演題「深い理解と共感をもって、心を育てる」

■ 11：10～12：30

講演2

門 眞一郎 氏

京都府 京都市児童福祉センター 副院長

演題「コミュニケーション支援を軸に」

■ 12：30～13：30

昼食・休憩

■ 13:30～15:30

実践報告

①障害者支援施設 あかりの家（兵庫県）

主任生活支援員 福原 正将 氏

「食事や睡眠に問題を抱えるAさんへの入所施設機能を利用した支援の積み上げ」

②社会福祉法人 北摂杉の子会 ジョブサイトよど（大阪府）

生活支援員 花野 由佳 氏

「安定した過ごしりの確立と余暇活動の参加を目指して」

③札幌市自閉症者自立支援センター ゆい（北海道）

業務課長 中村 修一 氏

「行動障害のある人の地域移行」

■ 15:50～17:00

シンポジウム

コーディネーター 三原 憲二 氏

社会福祉法人 あかりの家 施設長

アドバイザー 河島 淳子 氏

発達障害児療育センター

トモニ療育センター 所長

門 眞一郎 氏

京都市児童福祉センター 副院長

実践報告者 3名

2日目

9月30日  
(木)

### 第3分科会

会場：和歌山県民文化会館大ホール (1F席のみ)

テーマ

## 一人ひとりが満足のゆく施設生活を送る

地域生活者へ様々な福祉サービスが充足されていく中、私たちは、地域社会における入所施設の存在理由、役割を再確認して、どのようにその機能を生かし、個々人に応じた適切で必要なサービスが提供できるのかを示さなければなりません。

当然のことながら、支援は利用者本位であり、障害特性や心身の状態、そして年齢や生活歴に配慮していくことが基本です。今日までの施設支援の中身を検証し、良い支援をさらに発展させながらも、施設利用者個人にとっての幸せを見出すために、さらに施設はどうあるべきかを議論して、今後の進むべき道を明らかにしていきます。

#### 9：30～10：50

##### 講演1（施設関係）

八谷 重之 氏

社会福祉法人明和会 理事長

障害者支援施設 袋井学園 園長

演題「一人ひとりに寄り添う入所施設とは」

#### 11：10～12：30

##### 講演2（保護者）

由岐 透 氏

全国知的障害者施設家族会連合会 会長

演題「地域の核となる施設づくり」

#### 12：30～13：30

昼食・休憩

■ 13:30~14:50

講演3 (大学教授)

石渡 和実 氏

東洋英和女学院大学人間科学部人間福祉学科 教授

演題「インクルージョンの理念から、入所施設の新しい役割  
を考える」

■ 15:10~17:00

シンポジウム

司 会 進 行 八谷 重之 氏

社会福祉法人明和会 理事長

障害者支援施設 袋井学園 園長

パ ネ リ ス ト 由岐 透 氏

全国知的障害者施設家族会連合会 会長

石渡 和実 氏

東洋英和女学院大学

人間科学部人間福祉学科 教授

厚生労働省

社会・援護局 障害保健福祉部 障害福祉課

2日目

9月30日  
(木)

## 第4分科会

会場：和歌山市民会館小ホール

テーマ

### 働くことと暮らしを支える

就労支援は、知的な障害のある人たちの地域での生活を支える重要な柱であり、本人の力が十分に生かされ、地域で自立して生活ができるように支援の充実を図っていく必要があります。

障害者自立支援法は廃止の方向となり、今後、障害を持つ人たちにとって、本当により良い方向に行くのか注目されるところであります。

そして、すでに新体系に移行した事業所（就労移行支援・就労継続支援等）の取り組みや障害者雇用に積極的な企業等の報告から、現状における課題・問題点を明らかにして、就労支援の充実を図るための具体的な支援方法を考えます。

#### ■ 9：30～11：00

##### 講演1（施設関係）

武田 元 氏

社会福祉法人はらから福祉会（宮城県）理事長

演題「豆腐づくりは夢づくり」

#### ■ 11：10～12：30

##### 講演2（企業）

大山 泰弘 氏

日本理化学工業(株)（東京都） 会長

演題「働く喜びから人を活かす職場づくりへ！」

#### ■ 12：30～13：30

昼食・休憩

■ 13:30~15:45

分科会

- ・社会福祉法人 共生シンフォニー（滋賀県）  
がんばカンパニー 常務理事 中崎 ひとみ 氏
- ・株式会社サンライズ（和歌山県）  
専務取締役 津田 兼司 氏
- ・社会福祉法人 やおき福祉会（和歌山県）  
紀南障害者就業・生活支援センター 所長 清水 望 氏

■ 16:00~17:00

シンポジウム

- コーディネーター 武田 元 氏  
社会福祉法人はらから福祉会（宮城県）  
理事長
- シンポジスト 中崎 ひとみ 氏  
社会福祉法人 共生シンフォニー（滋賀県）  
がんばカンパニー常務理事
- シンポジスト 津田 兼司 氏  
（株）サンライズ（和歌山県）専務取締役
- シンポジスト 清水 望 氏  
社会福祉法人 やおき福祉会（和歌山県）  
紀南障害者就業・生活支援センター 所長

2日目

9月30日  
(木)

第5分科会

会場：ホテルアバローム紀の国 3F 孔雀

テーマ

## これからの子ども支援を考える

幼児期から児童期、成人期へと子どもたちが育っていく将来の姿を描きながら、育ちに関わる援助者は、何を学び、どのように関わっていけばよいのか、実践報告と意見交換を通じて、時代や社会の求めに応じた施設のあり方を検討し学びあう企画です。

■ 9:00

受付

■ 9:30

オリエンテーション

■ 9:40～11:20 (100分)

講演

加藤 淳 氏

ディサービスちよだ管理者

全国発達支援通園事業連絡協議会事務局長

演題「通園施設一元化の展望」

■ 11:20～12:00 (40分)

発題 「通園施設の現状と課題 困難事例への取り組み」

発表者 保院 妙子 氏

奈良県 仔鹿園（通園）保育士

■ 12:00～12:30 (30分)

質疑応答

■ 12:30～13:30 (60分)

昼食・休憩

■ 13:30～14:10 (40分)

発題 「成人施設への移行を迎える発達障害児への支援」

発表者 山室 真実 氏

岡山県 ももぞの学園 (入所) 主幹

発表者 中山 知子 氏

岡山県 ももぞの学園 (入所) 主任

■ 14:10～15:50 (100分)

講演

石井 哲夫 氏

社団法人日本自閉症協会 会長

演題「愛着臨床について」

■ 15:50～16:00 (10分)

休憩

■ 16:00～17:00

シンポジウム

座長 加藤 淳 氏

ディサービスちよだ管理者

全国発達支援通園事業連絡協議会事務局長

出席者 山室 真実 氏

岡山県 ももぞの学園 (入所) 主幹

中山 知子 氏

岡山県 ももぞの学園 (入所) 主任

2日目

9月30日  
(木)

第6分科会

会場：ホテルアバローム紀の国 2F 鳳凰

テーマ

## 毎日の生活に潤いを！ ～医療ケアと栄養ケアと支援員の連携～

日常生活に欠かすことの出来ない医療と食事。医療・栄養マネジメントの視点にも着目した日常支援のあり方を、講義・事例を通じ探求します。

- 9：30～10：50 講演①  
「健康的な食事と喜ばれる食事の両立をめざして：科学研究と食事摂取基準が教えるところ」  
佐々木 敏 氏  
東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻疫学  
保健学講座社会予防学分野 教授
- 11：10～12：30 講演②  
「食生活と健康」  
成川 輝明 氏  
近畿大学農学部 臨床栄養学研究室 准教授
- 12：30～13：30  
昼食・休憩
- 13：30～13：50 事例発表  
黒田 祐子 氏  
大阪府立砂川厚生福祉センター総務課 栄養士  
中濱 貴子 氏  
大阪府立砂川厚生福祉センター自立支援第1課 介護福祉士
- 13：50～14：40  
グループ討議・まとめ

■ 14:40～15:10

発表・助言者の総評

■ 15:20～15:40 事例発表

上田 真一 氏

社会福祉法人鎌倉聖音会 綾瀬ホーム支援員

■ 15:40～16:30

グループ討議・まとめ

■ 16:30～17:00

発表・助言者の総評

司会 河合 馨 氏（悠久の杜 施設長）

2日目

9月30日  
(木)

## 第6分科会

会場：ホテルアバローム紀の国 2F 鳳凰

### 第6分科会 グループ討議の流れ

1. 発題施設事例発表（約20分）  
この事例について内容は未定ですが、発題していただく施設で現在直面している栄養・医療関係の問題について報告してもらう予定です。
2. グループ討議については1グループ8名程度でその中に進行及び発表係1名、記録係1名を配置します。
3. グループ内には可能な限り栄養士・看護師が入る様に構成。
4. 各グループ参加の方は進行の方を中心に、発題施設の事例に基づいてグループ内で解決策（問題となった原因・解決の為に具体的な手段等）を模索していただくこととなります。討議時間は約50分となります。
5. グループ討議中は助言者に各グループを回ってもらう形を取ります。
6. グループ討議内での記録については別途記録用紙を用意します。発表については約5分程度としています。  
グループ討議については正しい回答を目指しているわけではありません。自由な意見を取り入れるため、できる限りグループ参加者全員から発言を引き出すようにお願いします。最終的にそれらの意見を進行の方がまとめ、発表してもらう形となります。
7. グループ発表後、助言者による総評をしていただきます。
8. 尚各グループで作成した意見などをまとめた資料については分科会終了後回収したいと思います。